

大震災・原発事故シンポジウム

～今私たちは何をすべきか～

主催:「平和と民主主義に根ざした研究を考える会」(筑波研究学園都市革新懇)

協賛:学研労協、日本科学者会議茨城支部

研究所・大学9条の会、産総研・平和の会

日時 11月12日(土)開場午後1時・開会1時30分～5時

場所 大穂交流センター(旧大穂公民館)、2階視聴覚室

未曾有の大震災・原発事故から8ヶ月たちましたが、被災地支援が一向にすすまず、政府や財界が描く復興計画にも批判が高まっています。一方、原発災害が広がるなかで、政府の原子力委員会がおこなった国民の意見の集計結果(2011.9.27 発表)によると、原子力発電を廃止すべきだとする意見が全体の98%を占めました。

今回は、この問題に焦点をあて、いま私たちは何をすべきかについて、皆さんと共に考えるシンポジウムを企画しました。多くの方のご参加をお待ちしております。

【プログラム】

13:30 開会挨拶

報告 (各30分報告、質疑応答5分)

「大震災からの復興と原発ゼロをめざすエネルギー政策」(13:45 - 14:20)

笠井 亮 氏

日本共産党衆議院議員、党原発・エネルギー問題対策委員会責任者

「省エネ徹底と再生可能エネルギー大幅拡大による低炭素社会の展望」(14:20 - 14:55)

歌川 学 氏

産業技術総合研究所・主任研究員

「放射能汚染から健康と食品の安全を守るために、行政と研究に求めること」(14:55 - 15:30)

小倉 正行 氏

日本共産党国会議員団事務局、参議院議員秘書

(休憩 15:30 ~ 15:40)

全体討論(15:40 - 16:50)

パネラー(上記講演者各位)と会場とのやりとり

16:50 閉会挨拶



【大穂交流センター(旧大穂公民館)】

住所	つくば市筑穂1-10-4
電話番号	029-864-3111
交通手段	つくばエクスプレス(TX)「つくば駅」より、つくバス北部シャトル(3番のりば)、「筑波山口」行き、10時以降は毎時25分、55分発。「大穂窓口センター」下車(所要時間15分)

「平和と民主主義に根ざした研究を考える会」

【連絡先】 (裏面に設立趣旨掲載)

河村俊次 電話:029-837-0771

E-Mail: kawa-shun@mail2.accsnet.ne.jp

「平和と民主主義に根ざした研究を考える会」設立趣旨(2006年9月3日)

「平和と民主主義に根ざした研究を考える会」は、つくばの研究所・大学等に関係するあるいはゆかりのある人々によって構成され、私たちの研究活動と平和、民主主義、生活(くらし)との関連を考える交流会です。そして、平和・民主主義・生活向上の目標にもとづく国民多数派の結集をめざしている「全国革新懇」¹⁾(<http://www.kakusinkon.org/>)の一翼として、国民本位の研究所・大学などのあり方や研究のあり方などについて考え、議論していこうという位置づけで発足いたしました。

1)「革新懇」の三つの共同目標

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

本「考える会」主催の「つくば研究交流」は、(1)つくばにゆかりのある研究者・技術者・研究支援者の交流の場、または、一般市民と研究者・技術者・研究支援者の交流の場として位置づけ、そして、さらには、(2)研究活動や研究支援活動と平和、民主主義、生活(くらし)との関連(「研究」と「社会」との関連)を考える、あるいは考えを深める機会の場としていただければというものです。